資料４

福祉分野別地域福祉活動計画の最終評価について（案）

※評価　Ａ：目標をほぼ達成した　Ｂ：目標を50％程度達成した　Ｃ：目標をほとんど達成できなかった　Ｄ：目標達成に取り組むことができなかった

目標	目標達成のために実施した主な事業	事業の成果（計画策定時からの変化）	目標の達成度合い	
			評価	コメント・課題等
障がいのある人が地域参加できるまち				
1　相談しやすい体制づくり	基幹型相談支援センターを開設し，南区自立支援協議会を立ち上げた。	基幹型相談支援センターが開設され，相談できる体制が整った。また，自立支援協議会を通して，支援に特に検討を要する事例に対応するためのつながりができた。	A	H26.10.1基幹型相談支援センターが開設し，相談事業は移行した。 関係団体と支援に特に検討を要する事例の情報交換により，事例の共有を図り，スムースな適切な対応が可能となった。
2　障がいのある人と地域の人々との交流	地域での「ふれあい昼食会」の開催、及び白根健康福祉センター内に「わいわいカフェ」をオープンした。	昼食会や、わいわいカフェの運営を通して地域の人々との交流の機会が増え、障がいのある人への理解が深まった。 また，白根健康福祉センターの自主事業参加者と共にミニコンサートや体操教室に参加している。	A	昼食会やカフェの運営を通し、積極的に地域の人たちとの交流を行っている。
3　わかりやすい福祉情報マップづくり	マップ作成に向けた委員会の立ち上げ支援。	マップ作りを通して、障がい者３団体、民生委員，ボランティアなど協力機関とのつながりが深まった。 ２６年度は，「バリアフリーマップ調査」を行った。	B	調査結果をまとめ，２７年度末完成予定 手話通訳の配置を記載することが，推進委員会で要望意見が出ている。
4　障がい者団体の交流活動	南区福祉３団体の共催による「障がい者スポーツ大会」、及び「クリスマス交流会」事業への支援。	障がい者団体間の交流はもとより、協力機関、地域の人たちとのふれあいを通し、相互理解のよい活動となっている。	A	３団体の活動として定着している。今後はこの活動を通して地域との交流に発展させることが必要。

※評価　A：目標をほぼ達成した　B：目標を50％程度達成した　C：目標をほとんど達成できなかった　D：目標達成に取り組むことができなかった

目標	目標達成のために実施した主な事業	事業の成果（計画策定時からの変化）	目標の達成度合い	
			評価	コメント・課題等
お年寄りが生きがいをもてるまち				
1　高齢者の閉じこもりや孤立を防ぐ	お茶の間助成事業	H21年度61か所あったお茶の間・いきいきサロンはH26年度で54か所にとどまっている。H26年度は地域の実情により定期開催ができにくい地区にもお茶の間ができ、12地区全てでお茶の間活動が実施されている。活動日に見守り活動に取り組んでいるお茶の間もある。	B	参加者はもとよりお世話役も高齢化しているなかで、お茶の間活動の継続が難しくなっていることが課題である。お茶の間関係者とボランティアグループとの交流会を通して、情報交換や人的交流や人材の育成、活用に努める。地域の顔と顔の見える関係づくりと、多世代交流を取り入れたお茶の間をいっそう推進していく。H26年度：54か所（内43か所助成金活用）
	買物支援事業	事業開始当初は月潟地区の一部を、毎週水曜日に移動販売車が巡回。 平成２６年度に月潟全地区および味方地区の一部に実施エリアを拡大し週３回稼働。買い物弱者の食材確保と住民同士の交流の場になっている。	A	毎週、移動販売を展開することで、停車場所の集会場を開放するなど、高齢者同士の交流と見守りが図られている。
	二次予防事業として、個別訪問、フォローアップ・見守り訪問	訪問により，必要な事業・支援・関係者へのつなぎができている。	B	地域・高齢者の実態把握として，今後も継続していく。

※評価　A：目標をほぼ達成した　B：目標を50％程度達成した　C：目標をほとんど達成できなかった　D：目標達成に取り組むことができなかった

目標	目標達成のために実施した主な事業	事業の成果（計画策定時からの変化）	目標の達成度合い	
			評価	コメント・課題等
2　介護者を支えあう地域	南区認知症家族介護者のつどい（年4回・交流の場）	同じ認知症を介護する介護者同士が集まることで、情報交換だけでなく、当事者にしか分からない気持ちの共有ができ、精神的負担感の軽減につながった。	A	参加者の声からも継続が望ましい。介護者だけでなく、認知症と診断された方も参加できるような場の設定を検討していく。
	介護者講座（口腔ケア、オムツについて介護者以外にも知識を身に付けてもらう）	介護の負担を軽減し、介護知識の提供ができた。デイの利用者だけでなく地域住民も参加し、知識を深めてもらうことができた。	B	参加者が一部の方にとどまっているため、広く参加を呼びかけていく
	圏域ケア会議	地域ごとの課題を抽出し、できるところから取り組みはじめた	B	地域住民と，地域課題・取り組みの成果を共有・評価していく必要がある。地域で解決できることだけではないため，改めて地域の課題・区の課題の整理が必要。
	家族介護者教室	介護者のストレス解消と交流を図った。また、近隣住民にも参加してもらい、介護者への理解、協力にもつながった。	A	介護の当事者でない人に対しても地域の実情を知ってもらう機会になった。25年度から受託法人が変更になっているが継続実施されている（南区で１ヶ所）。受託法人数も含め介護者にニーズ把握が必要である。
	男性介護者サロン（男性介護者の交流の場）	男性の介護者及び関心のある方に参加を呼び掛け、介護の仕方や施設見学、調理実習など講習会を通して、情報交換しながら気分転換が図られている。	B	H25年度まで味方・月潟地区での開催していたサロンをH26年度は、案内チラシや区社協広報紙、ホームページ等で広報し、区内全域への参加呼び掛けを行ったが、参加者数は伸び悩んでいる。区内の介護事業所とも連携し、男性が気軽に集えるような内容を検討することが必要である。
3　認知症の理解を深める	認知症サポーター養成講座	地域で認知症を支えるため開催し、年々、参加者は増加している。	B	まだまだ、認知症への理解が浸透しているとは言えない。今後も継続していく。
	福祉学習 介護レンジャー 寸劇	保育園や小学校等での福祉教育やお茶の間等で実施し、認知症への関心と理解を深めるきっかけづくりを行った。	B	認知症は、地域全体の課題であること、子ども達も含め自分達ができることを考えてもらう機会が今後も必要である。
	認知症相談窓口ののぼり旗の設置	味方・月潟地区の出張所・介護事業所だけでなく、認知症サポーター養成講座を受けたヤクルト白根支店にも設置し、相談窓口としてPRした。	C	相談場所の周知にはなったが、それによる相談数の増加は見られず、設置による効果は判断できない。ただ、相談場所の周知としては一つの手段であるため、必要な場所への設置を検討していく。

※評価　A：目標をほぼ達成した　B：目標を50％程度達成した　C：目標をほとんど達成できなかった　D：目標達成に取り組むことができなかった

目標	目標達成のために実施した主な事業	事業の成果（計画策定時からの変化）	目標の達成度合い	
			評価	コメント・課題等
4　老人クラブの活性化	訪問ボランティアの受入 民謡や踊り、コーラスのグループに来園してもらった。（年数回）	ボランティア・利用者が共に楽しみにしており、会話も弾み、交流が深まっている。地域の方のデイサービスへの理解が深まっている。	B	地域と顔の見える繋がりができつつあり、デイサービスへの理解も深まってきている。今後も継続していく。
安心して子育てできるまち				
1　子育て世帯が孤立しないまちづくり	主任児童委員・子育て支援センターのＰＲ、子育てサークルの活動支援	子育てサロン・サークルのポスター作成会を開催し、活動紹介をしている。 ふれあい親子まつり、サロン・サークル交流会など子育て中の親子が参加できる機会に身近な相談窓口としての「主任児童委員」や「子育て支援センター」等の活動を紹介し利用が図られている。 年１回開催の「子育てサロン交流会」は講演会や情報交換などリフレッシュが図られている。	B	区内の子育て支援センターや児童センター等の活動は充実していると考える。そのような中で、子育てサークルは、ほぼ横ばい状態。継続してサークル活動ができるよう、人材の育成、活用が課題と考える。 サロン・サークルポスターの掲示等、支援センターや児童センター等との連携を一層進める。
2　ゆとりをもって子育てができるまち	・ファミリーサポート（ファミサポ）事業 ひまわりクラブの利用促進 放課後児童健全育成事業 ・やすらぎタイム(白根コミ協主催) リフッレシュ講座(子育て安心ささえ隊３７３９主催) しろねふゆまつり（白根コミ協主催）	・「ファミサポ」の全市展開（H24.9月～）により会員が減少したが、病児保育、緊急預かり（宿泊）がスタートし、子育ての環境が向上し、会員数も少しずつ増えている。 新潟市ひまわりクラブ（新潟市社協受託）との連携、協働により子育ての相談窓口も広がり、ＰＲが図られた。 ・母子分離事業を白根児童センターを会場に開催した。子どもから離れ大人同士の会話を楽しんでもらうことができた。日頃のストレスを解消してもらった。南区以外からの参加者もあり、子育てにやさしい南区をＰＲできた。 寒い冬でも地域の方々から参加してもらい、子どもたちに楽しい遊びを提供することができた。	B	・「ファミサポ」の全市展開（H24.9月～）により会員の活動範囲が広域になった。またH25.4月～病児保育、緊急預かり（宿泊）がスタートし、子育ての環境が向上している。全市展開となったファミサポは提供会員が激減（３分の１程度）したが、事業内容について周知ＰＲを図り、提供・利用会員の増強により一層子育て環境の向上に努めたい。 ・地域の方々との連携を取りながら事業が継続できるように協議していきたい。

※評価　A：目標をほぼ達成した　B：目標を50％程度達成した　C：目標をほとんど達成できなかった　D：目標達成に取り組むことができなかった

目標	目標達成のために実施した主な事業	事業の成果（計画策定時からの変化）	目標の達成度合い	
			評価	コメント・課題等
3　地域ぐるみで子育て支援	地域行事への参加呼びかけ 多世代交流お茶の間	地域の多世代交流イベントや登下校の声かけパトロール等地域ぐるみでの子育て支援の取組みが継続されている。 子どもからお年寄りまで誰でも集えるお茶の間を目指して活動し、多世代交流を毎年行っているお茶の間が出ている。	B	顔と顔が見える地域づくりとしてお茶の間活動も一翼を担っているが多世代交流の取組みに助成金活用を勧めたり、活動の支援を図りたい。
ボランティア活動が活発なまち				
1　地域のボランティア活動の情報発信と活動の支援	①傾聴・障がい・福祉教育など、テーマ別にボランティア講座を開催 ②ボランティア情報誌「きらりん」・区社協だよりＨＰ等に、ボランティア情報や活動内容を掲載	①講座受講後にニーズに応じた活動先を紹介。ボランティア団体の立ち上げを行った。それぞれの分野で、活動ボランティアは増加している ②区社協だよりでは「ボランティア伝言板」として、活動したい人としてほしい人などの情報を掲載。新たな活動希望の問い合せ件数も多くなっている 　また「きらりん」での活動グループ紹介の反響が大きく、区外からの依頼もあり、既存グループの活動範囲も広がっている	B	活動者の持っている特技や能力を発揮できるような場の提供やきっかけづくり講座を開催。ボランティア同志がお互いの活動を理解し、今後の活動に繋げるために交流する機会をつくり、気軽に多くの人がボランティアに参加できる環境づくりが必要。 関心はあるけれど、どこに相談すれば良いかわからないという声に応えられるようＨＰの充実や、ボランティア相談窓口のＰＲなど周知活動を推進する。